

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000291		
法人名	医療法人 功尚会		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	大分県杵築市大字南杵築1941番地1		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471000291&amp;SCD=320&amp;PCD=44">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471000291&amp;SCD=320&amp;PCD=44</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館1F
訪問調査日	平成23年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム全体が家庭的雰囲気がある  
 利用者の笑顔がある  
 家族・地域の方が協力的  
 建物が明るく広く開放的  
 セラピー犬がいて全員の癒しになっている(入居者・スタッフともに)  
 食事が美味しい  
 職員のチームワークがよく楽しく働いている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利便性(商店や公共施設等)に富む市街地に所在しており、医療法人内の1ユニットの施設です。近隣には、法人の病院や通所介護施設等も併設しています。個々の利用者の豊かな生活と身心の健全保持に留意する日常の中で、24時間連絡可能な医療連携体制が図られています。利用者の在るがままの姿を全職員で共有し、さらに、家族アンケート結果を資質向上の糧として、チームワークを発揮しながら、「一人ひとりの個性の尊重」を柱に、日々の援助に努める職員の姿勢が伺えます。心地よくリラックスできる環境づくり(セラピー犬等)に努めており、明るく家庭的な雰囲気を大切に、ゆったりと暮らせる配慮が見えます。地域密着型の施設としての体制づくりにも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で確認し、ホーム独自の理念を作っている。月1回のミーティング、申し送り、具体的ケアについても計画の統一化を図っている。	理念の一つである「地域社会にとけ込む」という面では、法人で開催する盆踊りや、たよりの配布で地域の人たちとの交流がはかれています。また区長さんが市報を届けてくれるなど訪問しやすい環境作りを行っています。利用者個人個人の生活歴を把握し一人一人に沿ったケアに取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流、買い物、同施設内での交流を行っている。ボランティア等の参加や地域新聞も年2回発行している。地域交流を目的とした盆踊り大会も行っている。	地域新聞を近くのスーパーや役所に配布したり、保育園に遊びに行ったり、スーパーに買い物に行くなど、地域とのつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアの受け入れも積極的に行っている。また、随時地域の方々からの認知症相談も受けている。法人内の健康教室の際に認知症の理解・支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回開催。市の担当者・地域の代表・家族・入居者等の出席により意見・要望があれば取り入れサービス向上に活かしている。ホールに提示している。研修報告とともに健康講座等も行っている。	事業所からの報告の後は意見交換会を行い、家族や民生委員さんの質問等は、事業所でミーティングを行い次回報告し解決しています。また出席以外の家族の方の意向も把握する必要があるため、アンケートの実施に取り組みました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や交流会「ひばり通信」等も協力が得られており、常に連携を図りサービスの向上に取り組んでいる。	グループホーム連絡会を通じたり、メール交換などで連携がはかれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、職員の共有確認を図っている。安全面を配慮した自由な暮らしを支えるよう努めている。ホール入口の鍵も出来るだけ開けている。	定期的な研修を行い、職員全員が共通認識に取り組んでいます。夜間なども全居室に目が届く場所に職員を配し見守りが出来、自由な暮らしを支えています。	入居まもない方がいらっしやり、時々不穏になることもあるようですが、早く今の生活に溶け込んで、その人らしい生活を支えて頂くことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で高齢者虐待防止関連法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加するとともに活用できるよう取り組み実際に制度について利用者家族に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も多く話し合う機会もあり、直接要望が聞かれるのでその都度対応している。また、会議等意見が反映されるようにし相互に言いやすい関係を作り意見箱の設置も行っている。年1回のアンケートを実施している。	面会時やアンケートでの家族からの要望や意見に対し、会議やミーティングで話し合い、素早く対応できるよう心がけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて職員全体で話し合い意見・提案を聞いて反映させている。	職員同士の食事会やミニ旅行などを計画し、職場では日頃言いにくい意見なども話せる雰囲気作りをし、日頃のケアに活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を聞き、働きやすい環境に努めている。職員の気分転換を図る等の目的で定期的食事会や旅行等を行いストレス発散等も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やその他の研修を受ける機会を確保し、育てる取り組みをしている。また、市内のグループホームとの交換研修や意見交換会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加させ、他施設の方との交流の機会を作りサービス向上への取り組みをしている。市のグループホーム連絡会等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人の要望等を聞き入れ安心と信頼関係を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の希望を聞き入れ不安の除去に努めるようにしている。話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望を聞き支援の見極めを行い、その人に合ったサービス利用(対応)としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ全員十分把握し、暮らし共に本人を支えていく関係に努めている。利用者同士の関係に努めている。(例)更衣を手伝う、食事時の声かけ等		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全体、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係に努めている。定期的面会や家族会の開催、行事への取り組みを一緒にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会や外出等が出来、馴染みの人との関係を保てるよう支援に努めている。(ドライブ等で自宅又は自宅近くを通る、法人内での交流会で馴染みの人に会う等)	家族や近所の人の訪問が多く、アンケート調査でも、訪問しやすいとの意見を頂き、また行きつけの美容院や友人に会うなど、継続的な交流を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に第一に考え、関わり合い楽しく過ごせるように支援している。(例)レクリエーション・食事・コミュニケーション等		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後もこれまでの関係を大切に行き来したり、必要に応じて相談や支援に努めている。家族・本人に遊びに来てもらう等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握し、ケアマネジメントに努めている。日々の行動・言葉・表情等を大切にして個別ケアに努めている。	職員が気づいたことをメモし、ミーティングで話し合っています。一人一人が楽しく過ごせることを大切に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方、生活環境等これまでの経過等の把握を行いサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力等に応じた生活となるよう現状を把握しその人にあつた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全体のミーティングを行い、全員で話し合い介護計画の作成や3カ月毎のモニタリングに努めている。(本人・家族の意見を反映している)	日頃から家族に、思いや意見を聞き、月に1回のミーティングで職員全員の意見を出し合い、計画を立てています。また変化に応じ、臨機応変に見直しをしモニタリングを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個別ケアの計画に基づき記入し全員で話し合い見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた柔軟な対応・支援を行うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、地域の区長さんを始め民生委員・福祉委員・市職員・家族の方と意見交換の機会を設けている。理美容・商店・消防等把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望による受診支援としている。実際に現在1人他の医療機関を受診している。歯科・整形・眼科等の医療機関も希望により受診している。	利用者や家族の意思確認により、医療機関への受診が行なわれています。年1回の健康診断(協力医)を実施しており、健康状態の把握に努めています。個々の利用者の身体の状態を全職員間で周知され、家族との連携も保たれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名常勤。日々の情報、気づきにより異常等あれば看護師に報告し適切な医療につなげている。同法人の診療所・看護師とも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携に努め、早期退院ができるよう情報交換も行っている。定期的見舞いもしている。実際2名の実例あり。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人の診療所と連携している。本人・家族等と十分な話し合いを行い、希望があれば終末期介護も行っている。十分な話し合い後、重度化に伴う意思確認書も作成している。実例5名いる。	重要事項説明書等の「医療連携体制」に、重度化や看取りに関する事項の記載があり利用者や家族への意思・同意を得る体制の中で、体調の変化に伴う説明と、意思確認が行なわれています。職員のチームワークを柱に支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内でもAED等救急の研修を年1~2回全員行いマニュアル作成もある。ミーティング(月1回)でも定期的行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策マニュアル作成年2回(昼・夜)の避難訓練を行ない備蓄も準備している。地域への協力署名もあり名簿作成している。家族や地域・消防・消防団への声かけも行い協力を得られる様お願いしている。	地域の消防団との連携づくりに取り組んでいます。近隣の住民への火災時の協力依頼の説明と同意を得る中で、相互理解を深めながら安定した協力体制づくりに取り組む姿勢が伺えます。	地域との協力体制の強化(実地訓練等)に向けての働きかけ、並びに、自然災害時の安全対策における、実践に直結した協議と職員の周知など、防災への更なる取り組みに、一層の期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や来館時、トイレ誘導等においても対応や言動に配慮し、プライバシーを損ねないよう気をつけている。管理者は職員へ機会があるごとに説明・指導している。守秘義務は着任時にも説明し承諾書を書いてもらっている。	「個人情報の使用に係る同意書」が利用者・家族と交わされ、プライバシーの保持に取り組んでいます。職員間の気付きの共有と、充実したコミュニケーション力を支援の向上に活かしながら、利用者の尊厳に留意した介護に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2つに1つの選択を行って「コーヒー・お茶どちらにする？」等本人の思い希望を聞き自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聞き入れ、例(ドライブに行きますか?)等状態・ペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や化粧・髪飾り等その人らしい身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の色どり・好み等楽しみとなる工夫をしている。本人の能力に応じたものとおしぼり準備、お盆並べ、お盆・テーブル拭き等行っている。	会話の中から嗜好の把握に努めるなど、献立作りにも反映しています。また、個々の利用者の適量(完食)の調整や、席の位置の配慮、イベント食や外食など、楽しく心豊かな雰囲気づくりへの気配りに取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし、一人ひとりに応じた食事内容としている。状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員行っている。(一人ひとりに応じたケア)また、レクレーション等でも口の体操やリハビリを行っている。口腔ケアの研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、自立に向けた取り組みを行っている。定期誘導やパットの使用については一人ひとりに合った方法を行う。ミーティング等で毎月話して統一化を図っている。	利用者の特徴を把握する中で、職員は気づきの大切さを把握しており、プライバシーに配慮しつつ、一人ひとりの状態に合わせた声かけに取り組んでいます。職員間のチームワークを柱に臨機応変な支援と清潔な環境づくりに励んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた工夫を行っている。飲食物、運動等(水分量・牛乳・ヨーグルト等)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日毎に計画しているが希望や汚染があれば毎日入浴できる。入浴しない日は足浴を実施している。タイミングを図り声かけしている。(季節感を出す挿入浴剤やゆず湯等の工夫も行っている)	個々の利用者の個性や習慣を、全職員が周知する中で、安心感が抱ける心地よい援助に取り組んでいます。利用者の姿と向かい合いながら、日常的な清潔保持への支援が行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。(昼寝・時間等)生活リズムを大切にしている。体操、レクリエーション、散歩、日光浴等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解できており(ファイル作成)服薬の支援に努め状態等の変化にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、洗濯たたみ、犬の世話、梅干し作り、柿干し作り、お盆拭き、テーブル拭き、モップがけ等一人ひとりの能力に応じた楽しみの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出かけるよう常に努めている。ドライブ以外ではテラスでお茶、散歩、買い物、他施設との交流等出来るだけ外の空気になれるように支援している。	個々の利用者の意向に添う外出支援や近隣の法人施設への散歩、集団でのドライブイベント等に取り組んでいます。また、テラスでの日光浴や外気浴により気分転換が図られる中で、お茶会等も行なわれています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は職員が預かっている。希望や能力があれば支援につなげたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の支援をしている。希望者は手紙等定期的(年賀状・暑中見舞い等)に行い個別に出す支援を行っている入居者もいる。(2名)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り付け、家庭的雰囲気のある掲示等をして五感で感じられるよう工夫している。掘りコタツや畳の空間も設けている。	共同作品(職員)やプレゼント作品(近隣保育園)の展示や生花が飾られています。利用者の状態を考慮した家具(ソファ等)の配置転換など、明るく暮らしやすい環境づくりに取り組む姿勢が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・居間・ソファ・テラス等気の合った人同士が過ごせる居場所の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ・衣類ケース・仏壇等一人ひとり使い慣れた品を置き、家具等も置くことができる。安心して過ごせる工夫をしている。	担当職員制を設ける中で、利用者や家族の思いを大切にしながら、リラックスできる雰囲気づくりに努めています。安全で安心な心地よい居室づくりに向けて全職員で取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ等の場所が分かる工夫をしている。室内バリアフリーでトイレ・ホール手すりの設置等がしてある。		